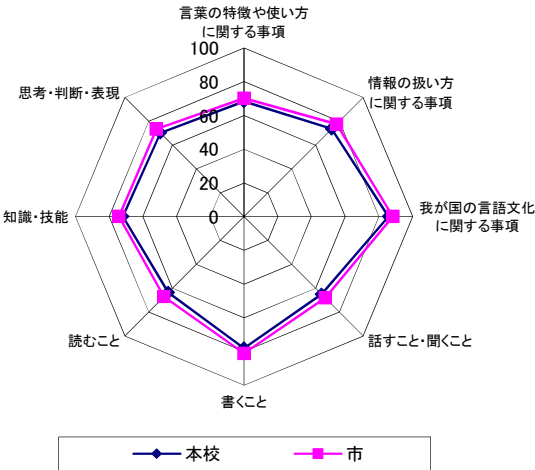


宇都宮市立清原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.4	70.2	64.7
	情報の扱い方に関する事項	73.6	77.6	71.1
	我が国の言語文化に関する事項	85.7	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	65.1	68.2	67.4
	書くこと	78.0	81.1	71.7
	読むこと	63.6	67.2	61.3
観点別	知識・技能	71.8	74.2	67.9
	思考・判断・表現	70.2	73.5	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

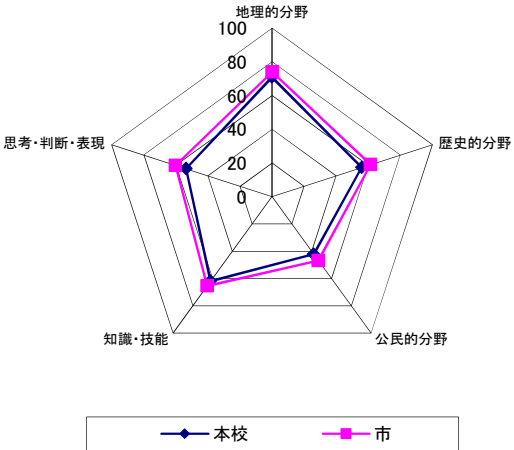
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○助動詞についての問題に関しては市の正答率を3ポイント上回っている。 ●漢字の読み書きに関して6問中5問が市の正答率を下回っており、類義語、敬語などの文法的事項についても市の正答率を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きの定着のために、定期的に漢字の小テストを行っていく。また、日常生活で必要となる敬語も、ロールプレイなどを取り入れた授業で身近に感じる展開を模索していく。
情報の扱い方に関する事項	○「情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉える」問題では市の正答率を下回っているが、全国正答率と比較すると、5.7ポイント上回っている。 ●「情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している」問題では市、全国ともに正答率を下回っている。	・情報を整理し、どのように展開しているのかという「読み取り」のスキルはあるが、自ら情報を活用し、伝達するスキルが未熟であると考えられるため、提示する情報を少なくして、注目するポイントを絞った類似問題などに取り組ませる。
我が国の言語文化に関する事項	○「現代語訳を手掛かりに古典を読む」問題では市の正答率を0.2ポイント上回っている。 ●歴史的仮名遣いの理解が市の正答率を5.3ポイント下回っている。	・古典の文章に抵抗がある生徒が多い傾向にあるので、問題を解くだけでなく、読む活動を増やし、古典に親しみをもたせる授業を展開していく。
話すこと・聞くこと	○「話の展開を予測しながら聞く」問題については市正答率、全国正答率を上回っている。 ●話の展開を予測できてはいるが、自分の考えを深めるまでには至らず、記述問題では市、全国共に正答率を大きく下回っている。(市:-3.9ポイント、全国:-3.1ポイント)	・話し合い活動の中で、相手の考えを引き出す質問を行えるような活動を行っていく。根拠を明確にして話すスキルはもちろんのこと、その中でも疑問に思ったことや、話の中で触れられなかったことに対しての情報を聞き出せるような思考訓練を行っていく。
書くこと	○7問中6問において全国正答率を上回っている。特に、「自分の考えを明確にして書く」問題では15ポイント以上上回った。 ●全ての問題で市の正答率を下回っている。特に「情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している」問題では全国正答率も下回っている。	・自分の考えをより正確に相手に伝えるために、語彙を増やす活動(意味調べ)を充実させる。また、文章の構成などの作文に関する知識を高め、作文課題に定期的に取り組む授業や、レポート課題を出すなどの取組を行っていく。
読むこと	○6問中5問において全国正答率を上回っている。特に、「情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉える。」問題では5.7ポイント上回った。 ●全ての問題で市の正答率を下回っている。特に「物語の展開の仕方を捉える。」問題では全国正答率も下回っている。	・説明的文章より、文学的文章の問題の方が正答率が低い傾向にあるため、架空の場面設定や、登場人物の心情を読み取ることが苦手であることが考えられる。登場人物の表情や、口調などの表現から心情を読み取る活動を取り入れたり、導入で場面設定などを丁寧に解説し、思考・判断のための材料を提示するなどの工夫を行う。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	70.8	74.0	67.9
	歴史的分野	55.9	61.5	56.1
	公民的分野	42.2	46.9	40.7
観点別	知識・技能	62.0	65.5	60.6
	思考・判断・表現	53.7	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

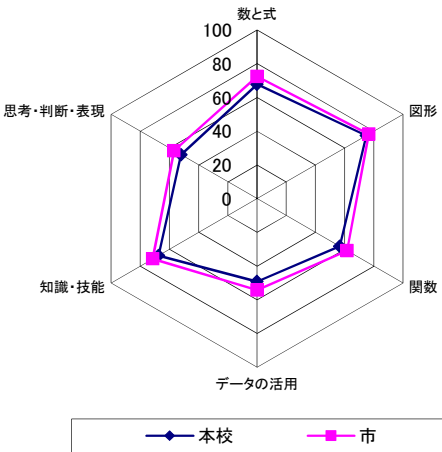
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○九州、中国・四国地方の工業や農業など産業について、知識技能を問う問題の正答率が、全国・市平均を上回っている。 ●上記以外の全設問の正答率が、全国平均を上回っているものの、市平均を下回っている。	○問われたのは中学1・2年生の学習内容であることから、各生徒の復習の取り組み方が不十分であることが考えられる。また生徒によっては学習時間は十分であっても、効率良く勉強が進められていないことも考えられる。多くの生徒が受験に向けて意欲的に取り組んでいる中、授業中に過去問を示し解かせる時間を設けるなど工夫する。
歴史的分野	○江戸時代の幕府の対外政策や、その中で発達していった「蘭学」について、知識理解を問う問題の正答率が、全国・市平均を上回っている。 ●江戸時代の幕府の政治改革や主産業であった農業について、知識技能や思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率が、全国・市平均を下回っている。	・正答率が全国・市平均を下回る結果となった、思考力・判断力・表現力を問う問題は、発展・応用問題ではなく、基本的な問題である。このことから、生徒の多くが授業中に一定の理解はあるが、テストの際に正しい答えを導き出せるほどに深い理解はできていないと考える。生徒の理解を深めるため、授業の中で実際の問題を解く学習活動を取り入れる時間を設ける。
公民的分野	○戦後つくられた新たな憲法「日本国憲法」の3つの基本原則について、知識技能を問う問題の正答率が、全国・市平均を上回っている。 ●基本的人権について問う問題の正答率が低い。特に「あたらしい人権」が求められるようになった社会的背景について、思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率が、全国・市平均を大きく下回っている。	・基本的人権の名称だけを覚えるのではなく、その普遍性や重要性について考える、理解する授業展開を模索する。公民的分野の学習は3年生の7月頃から始まる。政治や経済的学習内容の中には、生徒にとって聞きなれない言葉も多く登場する。苦手意識をもつことのないよう、身近な事例や新聞の記事等を導入資料に活用し生徒の関心を高めたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	67.8	72.5	71.3
	図形	74.9	76.5	68.1
	関数	56.7	61.7	50.3
	データの活用	49.2	54.2	43.5
観点別	知識・技能	67.4	71.5	66.7
	思考・判断・表現	52.0	56.9	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

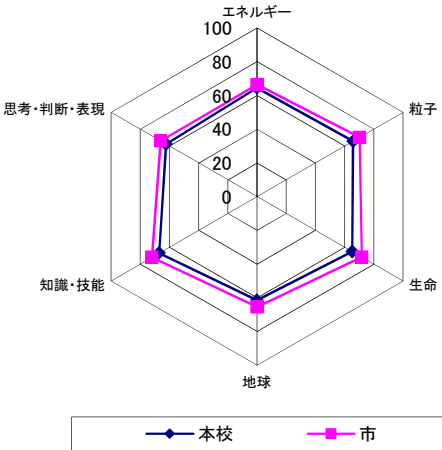
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○文章問題に対して連立方程式を立式することは、市の正答率をやや下回っているが、全国正答率より21.4ポイント上回っている。 ●乗法公式の計算、根号をふくむ式の加法の計算は市と全国の正答率を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・乗法公式や根号をふくむ式の計算の定着に向けて繰り返し練習を継続していく。そのため、教科書やワークだけでなく、必要に応じて自作プリントを利用する。定期的に学習することも必要とされるので、AIDリルを利用して復習させる。
図形	○回転移動させたときの図形の角度を求めることや、三角形の対称移動についての問題は、市の正答率を上回っている。 ○三角形の合同条件については、市の正答率をやや下回っているが、全国正答率を上回っている。 ●三角形の高さを表す作図の問題は、市の正答率を下回っている。	・作図の書き方だけでなく、その作図のもつ意味を考えさせる。また、作図は中学1年の学習内容のため、重点的に作図の課題に取り組める演習の時間をつくる。また、AIDリルを利用して復習させる。
関数	○1次関数のx軸・y軸・交点からできる三角形の面積を求めることについては、市の正答率を下回っているが、全国正答率を16.2ポイント上回っている。 ●2乗に比例する関数で、正方形の辺の長さを求める問題は市と全国の正答率を下回っている。	・関数は苦手意識をもつ生徒が多い。関数とグラフにおいて、日常生活や社会において興味・関心をもちそうな事象を教材化して学習に取り組むことにより、数学がより身近なもの・役立つものとの「有用性やよさ」を感得させ、関数を学習することへの意欲を高める。
データの活用	○確率を求める問題は2題とも、市と全国の正答率を上回っている。 ●箱ひげ図、ヒストグラムから値を読み取るなど、データ分布の傾向については、市の正答率を下回っている。	・代表値についての理解を確実にするために、中央値、最頻値、平均値など丁寧に時間をかけて演習する。また、ヒストグラムや箱ひげ図の読み取りについても、特徴や理由を説明・記述する場面を増やしていく。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	64.5	66.5	61.2
	粒子	65.8	70.2	62.3
	生命	65.3	71.8	65.7
	地球	61.4	65.4	61.0
観点別	知識・技能	67.0	72.0	67.3
	思考・判断・表現	62.3	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

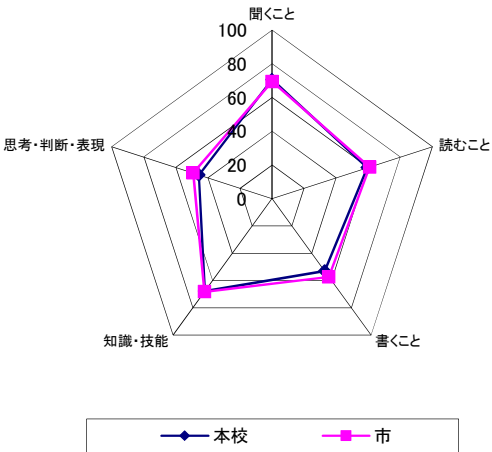
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○波形から音の高さを判断することや、2つの音叉の間に板を置くと、音が伝わりにくくなることを推測する問題では市の平均を上回っている。 ●電力量を求める問題の正答率が市の平均を下回っている。 ●位置エネルギーの変化から運動エネルギーの変化を推測する問題では、市の平均を下回っている。	・公式を使って電力量を解くことを苦手としている生徒が多いので、反復練習を行い計算力を身に付けさせたい。 ・身近な例を用いて力学的エネルギーが保存されることを再確認させたい。
粒子	○アンモニアの性質を問う問題では、市の平均を上回っている。 ●酸素、二酸化炭素、水素のいずれの気体も集められる方法を問う問題では、市の平均を下回っている。 ●メスシリンダーの目盛りを読む問題では、市の平均を下回っている。	・二酸化炭素は下方置換法でも集められるが、水上置換法で集めた方が、気体が見えるので便利であることを再確認させたい。 ・メスシリンダーに限らず、量りは最小目盛りの10分の1まで目分量で読むことを再確認し、練習をさせたい。
生命	●シダ植物やコケ植物のからだのつくりを問う問題では、市の平均を下回っている。 ●消化のしくみについて問う問題では、市の平均を下回っている。	・清原の杜でシダ植物やコケ植物を実際に観察し、維管束の有無や根のつくりを確認させたい。 ・デンプン、タンパク質、脂肪がどの消化器官で何に分解されるか、動画やCGを活用して理解を深めさせたい。
地球	○あたたかい空気と冷たい空気の動きについて問う問題では、市の平均を上回っている。 ●無色鉱物について問う問題では、市の平均を下回っている。 ●火山噴出物の色と火山の形の関係を問う問題では、市の平均を下回っている。	・火成岩や鉱物標本を実際に触らせて、斑状組織や等粒状組織のつくりや成り立ちを理解させたい。 ・粘りけの異なるスライムを穴から噴出させ、どのような形になるか実験を行い、粘りけと火山の形の関係を理解させたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	70.6	69.4	63.8
	読むこと	59.3	60.8	55.6
	書くこと	53.2	57.5	47.8
観点別	知識・技能	67.8	68.3	64.1
	思考・判断・表現	45.6	49.2	37.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○全体として、市の平均を1.2ポイント上回っている。 ○日常的な話題についての英文を聞き、概要や要点をとらえる設問で、市の平均を上回っている。 ●質問されたことへの応答を選ぶ設問で、正答率が低くなっている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・英語を英語のまま理解し、反応する練習が大切になる。 ・概要を捉えるだけでなく、より詳しく情報を聴きとれるように「必要に応じてメモを取る」ことを練習する。 ・引き続き、ALTとの協同授業を実施していく。
読むこと	○基本的な語彙・語法を問う設問のいくつかにおいて、市の平均点を上回っている。 ●全体として、市の平均を1.5ポイント下回っている。 ●メールの文や対話文を読み、その内容を把握しているかを問う問題の正答率が低い。	・1・2年生の頃から、まとまった量の英文を読む経験を積む必要がある。教科書以外の読み物教材も適宜活用していく。 ・基本的な語彙・語法を確実に習得できるよう、特に、単元テストや定期テストなどの機会をとらえて、家庭でもワーク・AIDリル等を活用し、問題演習を進めていくよう促す。 ・普段の授業から実際のメール文や広告などを用いて授業を行っていく。
書くこと	○SVOOの文において正確な文の語順を理解できているかという問題で市の平均を上回っている。 ●全体として、市の平均を4.3ポイント下回っている。 ●記述式の英作文においては、ほとんどの設問で無解答率が20%以上であり、市の平均より3ポイント程度高い。	・日頃から自分の意見や考えを書く訓練が必要である。 ・特に、ALTとの協同授業では、話すことが中心になりやすいが、折に触れて、学習したことを活用した「書く活動」を取り入れていきたい。また、あきらめずに解答しようとする力を育てていくためには、授業の中で、教え合い、学びあうことが大切であり、意見を伝え合いたいくなるような円滑な人間関係作りが必要である。

宇都宮市立清原中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・目標にむかってあきらめずに、粘り強く学びに向かう生徒の育成	・「自主学習ノート」の運用と適切な家庭での学習課題の提示 ・新入生への「きよはら学習ガイド」の配付	・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の項目では、1・2学年の肯定割合は市の平均を上回り、3学年は市の平均とほぼ同じであった。
・個に応じた分かりやすい授業を展開し、個別最適な学びを推進するためのICTの活用	・1人1台端末やAIDリルの活用 ・ICT支援員との協働	・「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている」「パソコンを使って、相手にわかりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」の項目では、3学年とも肯定割合が市の平均を上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・家庭学習の習慣化を目指した「自主学習ノート」の取組は効果をあげており、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」の数値も市の平均を上回っている。次年度は、家庭での学習課題の適切な提示を行い、その日に学んだ学習内容はその日のうちに復習し定着を図れるよう、自主学習の質を深めていきたい。
- ・1人1台端末を扱うための技能レベルは年々向上してきているので、今後はそれを土台にして「思考力、判断力、表現力等」を育みながら、他者との対話を活かして、自らの学びを深めることができる生徒の育成を目指す。